



# 須木庁舎だより 3月号 2015 NO.92



## Soft Road 創作喜劇



## 『塩の道』すき歌劇団なご組

### ～塩の道(ソルトロード)～

『あらすじ』  
 ここ須木郷には、西に白髪岳、南に霧島連山を望む海拔929メートルの七熊山がある。この山は、かつて西南戦争で政府軍(官軍)に敗れた薩軍の兵児たちが、郷里鹿兒島を目指して命からがら逃げ惑い、死闘を繰り返したところである。また、尾根沿いに細い道が続いており、これが、海と山をつなぐ物流の交通路であった「塩の道」である。  
 さらに、この山の頂上近くに約十坪くらいの平地があり、これは「坊屋敷」と呼ばれた場所だ。ここは「浄土真宗」の信者が、密かに念仏を唱えたとされている。生命維持に繋がる塩を求めた、七熊山道と俵置き場は、馬を3～4頭引き連れて高岡赤谷にあった島津蔵屋敷に、上納米を納め、塩を求めた旅であったに違いない。だが、これは須木郷が薩摩藩に統治された以後のことだと思われ。ここでは、それ以前の「塩の道」はどんな様子だったのだろうか。  
 生きていく上に欠かせない塩を求めて、ここ七熊山の「塩の道」は存在していたはずである。  
 そして、山に生きる人々の厳しい生活の中で、命を脈々とつなぎ、朗らかに強く生きぬいてきた、その当時の様子を垣間見た「塩の道」を題材に、その時代に思いを馳せながら、演じる創作喜劇である。

2月7日(土)、須木総合ふるさとセンターにて、須木小学校教団と保護者で結成された、「すき歌劇団なご組」による創作喜劇『塩の道～ソルトロード～』が上演されました。  
 会場には、多くの観客が集まりホールは満員。上演が始まると会場は笑い拍手で大賑わいとなりました。  
 詳細な演劇内容については、「広報こぼやし」にて特集が計画されています。

編集発行／小林市須木庁舎地域振興課  
 TEL. 0984-48-3130 FAX. 0984-48-2269 ホームページ  
 携帯版 <http://www.city.kobayashi.lg.jp/i/>

〒886-0192 小林市須木中原 1 7 5 7 番地  
 P [Chttp://www.city.kobayashi.lg.jp](http://www.city.kobayashi.lg.jp)

## 狩猟によって、食材として捕獲された野生鳥獣『ジビエ』を知っていますか。

### 須木の『ジビエ』で地域おこし!



【ジビエ】：(仏: gibier)  
 狩猟によって、食材として捕獲された野生鳥獣のことであり、主にフランス料理での用語。  
 本来は、ハンターが捕獲した野生のもの(ソヴアージュ)を指しますが、供給が安定しない、また入手困難で高価になってしまったり、飼育してからの一定期間、野に放つたり、また生きたまま捕獲して餌付けしたのも半野生(ドウミ・ソヴァージュ)と呼び、ジビエとして流通しています。  
 ジビエは、本場フランスでは、料理の花形といえるほど貴重であり、ヨーロッパの人々にとっても、身近であると同時に無くてはならない食材なのです。  
 そういう中で現在、須木地区では、シカ・イノシシが、大量に繁殖し被害が絶えません。これを有効的な食肉として取扱えないかと多くのところで議論されています。  
 しかし、有害鳥獣のイメージが強く、ウシやブタ肉等と比べると需要が低く女性や子どもに消費されにくい傾向があります。



その昔、シカ・イノシシはモミジ・ポタンと隠語を付けて、隠れて食すくらい貴重されていた時期もありました、薬喰と言つてごまかして食べていた例もあるくらいです。  
 日本の特に東京では、食肉用として処理されたものは、レストラン等のメニューとして普通に食べられていて、種類も豊富です。  
 須木地区のシカ・イノシシをジビエとして扱えないか検討しています  
 ■ 現在、市内で駆除されている鳥獣個体は、ほとんどが、食肉用(販売用)としては使えません。  
 ■ シカ・イノシシの捕獲の際に、生体を傷つけないよう十分気を遣わないといけません。  
 ■ 衛生的な環境が整った、解体処理施設が必要となります。  
 ■ 食肉用として扱うには、適切な捕獲や解体のやり方を学ばなければなりません。

## 地域おこし協力隊が須木の『ジビエ』を使った試食会を実施!

2月19日(木)に、地域おこし協力隊の勝本哲也さん、松瀬健治さんが、須木地区で狩猟された鹿肉、猪肉を使用した、ジビエ料理試食会を東呉谷研修館で実施しました。  
 今回の企画は、猟友会に肉の提供をしてもいい、本地区の名産である栗とユズの剪定の鹿肉の角煮、猪肉を提供した生産者元産にこだわった鹿肉の燻製や、猪肉の材料を提供した生産者や、各関係者が招待され、試食会には、材料を提供した生産者や、各関係者が招待され、試食後の感想をアンケート取り、今後の試作品開発の参考にしたいと思います。  
 今後、須木地区の「ジビエ」を使用した商品開発で、地域おこしが成功することを期待します。



『やきざかなののろい』  
 著者：塚本 やすし  
 発行：ポプラ社  
 \*貸出中の図書は予約で  
 きます\*  
 四八二九五四  
 〇一〇二九五四  
 〇八二九五四  
 〇四二九五四  
 〇〇二九五四

『本は友だち』  
 著者：池内 紀  
 発行：みすず書房

〜児童書〜  
 『やきざかなののろい』  
 著者：塚本 やすし  
 発行：ポプラ社  
 \*貸出中の図書は予約で  
 きます\*  
 四八二九五四  
 〇一〇二九五四  
 〇八二九五四  
 〇四二九五四  
 〇〇二九五四

〜一般書〜  
 『本は友だち』  
 著者：池内 紀  
 発行：みすず書房

◎おすすめ本の紹介  
 須木分館の旬な情報  
 やや話題をお届けし  
 す。話題をお届けしま

# 須木地域協議会だより

須木地域協議会では、毎月1回、須木地区の事業に関することや、須木地区の活性化などを協議する「地域協議会」を開催しています。以下、1月に行われた地域協議会の主な内容を紹介いたします。

(1) 地域協議会委員の視察研修について  
 地域自治区廃止後の須木地区の在り方や、シカ・イノシシ被害対策などを目的とした視察研修が、2月17日・18日（大分県・福岡県）に実施されることになりました。

(2) 設置期間満了後の地域自治区及び地域協議会について  
 地域自治区設置期間満了後の地域自治区及び地域協議会について、地域協議会からの意見書を作成し、市に提出することになりました。

今後も、須木地区の活性化のために協議を進めてまいりますので、ご意見等がありましたら、地域振興課（TEL48-3130）までご連絡ください。

## 須木小学校PTA新聞「すきっぷ」宮日新聞最優秀賞



須木小学校PTA広報部が作成した、PTA新聞「すきっぷ」が、第15回宮日PTA新聞コンクールで最優秀作品賞を受賞しました。小学校の部53点の中から選ばれ、レイアウトや企画力、文章力が評価されました。すきっぷの内容は、1年生から6年生の活動報告を中心に構成されており、携帯電話の特集も組み入れ、とても読みやすくなっています。

## 第11回「須木商業まつり」開催



2月15日（日）、すき商工会主催の須木商業まつりが、須木総合ふさとセンターで行われました。会場では、民謡やフラダンス、和太鼓等が披露され、会場外では物産販売も行われました。恒例の大抽選会では、名前が呼ばれるたびに、歓声があり大いに賑わいました。

## 平成26年度こばやし福祉推進大会 「金婚者・米寿者のお祝い！」

### 福祉功労団体賞を受賞！永田いさいきサロン

2月6日（金）、小林市文化会館にて、平成26年度こばやし福祉推進大会が行われました。今年には市内金婚者97組、小林市老人クラブ連合会の米寿者は91名でした。

須木地区の金婚者は、岩下経作・房枝さんご夫妻（永田地区）、八重尾光男・政子さんご夫妻（上九瀬地区）の2組が金婚を迎えられました。また、大会では、金婚者、米寿者を祝う宮崎県警察音楽隊による、アトラクションが披露され会場は賑わいました。

【小林市社会福祉協議会会長表彰（福祉功労団体表彰）】  
 永田いさいきサロン（永田地区）

【須木地区金婚者】 房枝さんご夫婦 1名  
 岩下 経作 3名 夏木地区 2名  
 八重尾光男 政子さんご夫婦 4名 下九瀬地区 1名  
 上九瀬地区 1名



（八重尾 光男・政子さんご夫妻）

# 「地域おこし講演会」主催：山びこの里実行委員会（内山地区）

2月14日（土）内山地域福祉センターにて、「地域おこし講演会」が山びこの里実行委員会主催で開催されました。山びこの里実行委員会は、地元の小中学校の閉校、保育園の休園、高齢化の加速化が進み、このままでは内山地域そのものの存続に危機感を持ち、何とかしなければという思いで内山地区住民が立ち上がり結成されました。

今年度は稲作を中心とした農業体験事業による、交流人口の増加を図る取り組みを行いました。そして、実行委員会代表上原会長が、地域おこしで成功している石川県能登町の「春蘭の里実行委員会」を訪問し、そこで交流した春蘭の里実行委員長に講師を依頼し、今回の講演会が開かれました。講演会では、多田事務局長が春蘭の里実行委員会の成り立ちなど経験談を含めて、地域おこしの在り方等について講話されました。

春蘭の里実行委員会が活動している石川県能登町の宮地・鮭尾地区は、内山地区と変わらない山あいにあり、閉校となつた小学校もあり典型的な少子高齢化の進む地域です。多田事務局長は、「赤ん坊の声が届くようにしよう」と情熱と行動力で地域おこし活動を続けてこられたそうです。「こんなに赤ん坊や若い人がいる内山地区は素晴らしい」と講演会に訪れた内山地域の人たちに話されました。

山びこの里実行委員長は「肌で感じた能登町の情熱とアイデアを、ぜひ地元住民の方達にも感じて頂きたい思いで開催しました。多くの方に足を運んでいただき、これからは楽しみます。開催にあたり、たくさんの方々に協力を頂き感謝しておりますし、地域おこしのきっかけになれば幸いです。今後も地域の方々という人々な事を取組んで参りたいです。」とおっしゃっていました。



## 「鳥田町夏木ゲートボール愛好会」会員募集

現在、鳥田町夏木ゲートボール愛好会は、男性12名、女性6名の方々が地域を問わず、小林市内から集いチームを編成しています。

毎週水曜日・土曜日の午前中に練習しており、市の大会や西諸大会及び県大会に参加し大いに活躍して健康づくりに努めています。

男女、年齢を問わずチームは編成され常に和やかに笑いの絶えないチームで頑張っています。懇親会も3ヶ月に1度、2月には会員で慰安旅行にも行きました。

健康増進が目的のため、多数の方々の入会を募集しています。ご希望の方は、二原正男会長もしくは八重尾巳年さんまでご連絡ください。

## 第65回こばやし駅伝競走大会 区間賞 吉蘭 菜さん（須木中）

1月25日（日）に、第65回こばやし駅伝競走大会が開催され、須木地区から14名の選手が出場しました。

その中で、3区を走った吉蘭菜さんが区間賞の力走を見せましたが、須木チームは残念ながら入賞はなりませんでしたが、今年は、すきむらづくり協議会も応援に参加し、沿道には黄色いのぼり旗が多く並び、選手と共に頑張りました。

